
ちいさなその手

こたろー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちいさなその手

【Zコード】

Z15651

【作者名】

こたるー

【あらすじ】

みなさんにとって『命』とはなんですか？

どうしても一度、しつかり描きたかったことです。生きること。健康な体。手に入れたくても、手に入らない人もいるのだと、これを読んで気付いてくだされば幸いです。

小さな、小さなこのお手てを 離さないでね。

早く、早く！ パパとママに会いたいんだ！

お腹の中の小さな命が、毎晩語りかけてくる。

「ママもパパも、早くあなたに会いたいよ」

愛しい我が子を、早くこの手に抱く日を待ちわびていろ。

しかし、私たち夫婦に悲しい出来事が起こる。

妊娠28週目、いつも通り妊婦検診を受けに病院へと足を運んでいた。まだ、それほど重くは感じられないが、見た目で『妊婦』とわかるほどのお腹。少し、腰痛もするようだ。

その日は、検診を受けてそのまま自宅へと帰つたものの、3日後、改めてその病院から電話がかかってきた。

『やつぱり、胎児の心拍数が少ないようです。紹介状を書きますので、そちらの病院へ行ってみてください』

胎児の心拍数が少ない……不安を抱えたまま紹介された病院へと向かい、検査を受ける。夫婦で先生に呼ばれるまでの間、手をとり合い、「大丈夫」「きっとなんともない」そう、言いながら待つていた。

しかし、現実とは残酷なもので、お腹の子供には先天性の心疾患があることがわかったのだ。

かつて、こんなに絶望感でいっぱいになり、目の前が真っ暗になるという体験をしたことがあつただろうか？ いや、ない。

それから、すぐに入院。入院して何日かは、消灯後、何度も声を殺して泣いた。健康に産んであげられない。私のせいでの子は病気を抱えてしまった。本当に苦しい毎日だった。

しかし、お腹の中で我が子が懸命に私を励ます。『ぱいひ』『ぱ

いひ』と、何度も腹壁を蹴る。そう、胎動だ。

『ママ頑張って！ そんなに悲しまないで。私を、どうか受け入れてね』

そう言われて、いるような気がして、お腹を撫でるたびに愛しさが込み上がる。

「ママ、頑張るね。」

涙で濡れた瞳を拭いながら、生きていることを伝えてくれるお腹に手を当てて、一緒に頑張り、と何度も何度も咳いた。

翌日、先生からの提案で、出産は予定帝王切開になつた。手術は初めてだったのに、我が子に会える喜びで、ちつとも怖さはなかつた。むしろ怖かったのは、お腹から胎児を出した後、我が子が地上の空気に耐えられるのかということだけだ。

胎児を取り上げ、さつと私の前に見せてくれる助産師さん。真っ赤で、小さな小さな我が子。

わずか1500グラムほどで産まれた、弱々しい我が子。でも、会えた喜びはとても大きかつた。

すぐに心拍数を上げる点滴を打ち、NICUに入る事になつた。私は手術後なので病室へと運ばれ、1日中会うことを許されなかつた。我が子との対面は、手術室での30秒間だけ。

次の日、我が子に会いに行くために起き上がりと試みたが、お腹を手術で切つた為、激痛が私を襲う。けれど、その激痛に耐えながら、6階の病室から4階のNICUに車椅子で会いに行つた。NICUで我が子との対面。その時、正直涙が出たのだ。

あまりにも小さな我が子。沢山の点滴。細々とした体。人工呼吸器。

「頑張つて。頑張つて生きようね。一緒にお家に帰ろうね」「涙を堪えながら話しかけた。産んで2日目、未だに抱けぬ我が子にそつと指先で掌を触つて……。ちいさなその手が『ぎゅっ』と握り返す。

『泣かないで。たくさんあたしに笑いかけて、話しかけてね。パパとママのこと、たくさん教えてね』

何度も何度も語りかける。たくさん話しかけるから、たくさん触れるから。ちょっとしか一緒にいられないけど、寂しくないよね？お友達たくさん周りにいるから、大丈夫だよね？

そんな可愛い小さな我が子、何度も命の危険に晒してきた我が子。一生治らない心臓の病気。

それでも、今。とつても元気に過ごしている。

普通より成長は遅いけれど、健康な子より運動制限はあるけれど、一生懸命生きている。

笑つて 泣いて 食べて。

こんな『当たり前』のことが、とても嬉しく思える。

生きるつづくことなんだなあ。

そう、命の素晴らしさを感じられたのは、我が子のおかげ。命の大切さを、どうしてもこの場で伝えたかった。

これを読んでいるあなたが、どうぞ命を大事にしてください

आकाशविहार

(後書き)

はじめまして、こたるーです。

今回、どうしても描きたかった事を描かせていただきました。皆さんにとって「生きること」とは何でしょうか?普段そんなこと考えませんよね。私だけです。でも、我が子がこういう形で生まれたことを、どうしてもこうして文章にしてみたかったです。作者の自己満足です。申し訳ありません。

最後に一つ。心臓が悪いことは言え、ずんずん歩いて、笑って、泣いて。普通の子と同じ元気ですので。そのことだけ、お伝えしておきますね。

では、読んでいただいた皆様、ありがとうございました。

読んでくださった皆様が、『生きる』ことの素晴らしさを共感してくださっています……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1565i/>

ちいさなその手

2011年4月14日11時38分発行